

NPO法人
次世代のチカラFUKUOKA
2021年度 活動報告書

未来の主役は、今のこどもたち。

子どもたちが見せる一瞬の笑顔。（水かけ祭り／ミャンマー）
ミャンマーでは、コロナ禍・軍政変下による過酷な生活が今も続いています。

「こどもたちの将来の活躍を応援する」

この信念を掲げて活動を開始してから、間もなく10年が経ちます。立ち上げ当初は、無我夢中になって自分たちにできることを探し回って、仲間たちと大いに語り合ったことを思い出します。振り返れば、小学生など子どもたちと一緒に何度も、様々な教室イベントを福岡市内各地で開催してきました。障がいがあるお子さん家庭と一緒に大型バスを貸し切っての社会科見学も心に残る取組みのひとつです。大学生を引き連れて社会課題を学ぶ研修企画も、海外での交流体験や将来への糧となる貴重な経験を積んでもらうプログラムを用意するために、東南アジア諸国 / 諸都市を1ヶ月ほど歴訪したのも、ついこの間のことのように思い出されます。

この間、多くの笑顔と接してきました。この間、多くの苦悩と接してきました。国内外を問わず、未来を閉ざされることへの不安や恐怖に直面しているこどもたちが多くいることは、目をそらすことができない事実です。例えほんの些細なサポートでも、将来への挑戦の心に灯をともすことができるかもしれません。そう思って、これからもできる取組みを続けて参ります。

令和4年9月

NPO法人 次世代のチカラFUKUOKA
代表 新村（にいむら） 優（まさる）

INDEX
主な活動紹介

1. ランドセルバンク
2. カンボジア・ミャンマー 孤児院への支援
3. 「将来の夢」アートの展示
4. 児童養護施設への支援
5. コロナ禍の医療機関等支援
6. 学校での特別授業・講義
7. 小児がん家庭への支援

福岡とアジアの子どもたちの将来を応援するヒーロー企業

2021 年度も、多くの企業・団体協賛により活動を支えていただきました。

㈱ふくや　㈱福岡銀行　㈱新出光　英進館㈱　㈱大賀薬局　㈱サニクリーン九州　㈱ケアリング

アトモスダイニング㈱ ／ 医療法人 あんのうらクリニック ／ 医療法人勢成会 井口野間病院 ／ ㈱駅前不動産ホールディングス ／ ㈱ 海協リライアンス ／ ㈱環境開発 ／ 九州エステート㈱ ／ ㈱クックチャムプラスシー ／ 医療法人 恵光会 原病院 ／ 医療法人 光川会 福岡脳神経外科病院 ／ 医療法人 光竹会 ごう脳神経外科クリニック ／ 社会保険労務士法人 COMMITMENT ／ ㈱シーアンドイー ／ ㈱島田電気商会 ／ 医療法人 仁慈会 西原歯科 ／ 創ネット㈱ ／太平洋貿易㈱ ／ ㈱チヨダ ／ ㈱ナカケン ／ 税理士法人 西方会計 ／ 日商保険コンサルティング㈱ ／ ㈱ハッピートラベル ／ 社会医療法人 原土井病院 ／ 肉のヒサダヤ ／ 福岡クリーン産業㈱ ／ 福岡リバティライオンズクラブ ／ふくよかケアプラザ大平寺 ／ ふくよかケアプラザ大名 ／ 毎日リビング㈱ ／ ㈱みずほ不動産鑑定所 ／ ㈱みらいメディクス ／ 明倫国際法律事務所 ／ ㈱メディカルブレイン／ ㈱百田工務店 ／ ㈱ユニコム ／ ㈱リバーシーン物流　（50音順）

活動報告
01 ランドセルバンク

事業内容

福岡市の小学生のうち、およそ4人に1人が支援を必要とするご家庭のお子さんです。
生活保護世帯：1.9%　就学援助世帯：21.7%（R2年調べ）
この数字を見ると、子育て世帯の生活がいかに厳しいものになっているかがわかります。
「ランドセルバンク」は、各方面から寄贈いただいた大切なランドセルを磨き上げて、それを必要としてくださるご家庭にお渡しするというランドセルリユースのプロジェクトです。
この活動を開始してから2回の入学式を迎え、これまでに89人の児童（家庭）が利用してくれました。89人目の児童は、ウクライナから福岡へ避難してきた小学5年生の女の子でした。ランドセルを受取ることに引け目を感じさせてしまうことがないよう工夫を凝らしながら、3回目の入学式を見据えた準備を進めて行きます。









新品とまではいきませんが、各方面の皆さんから寄贈いただいたランドセルはとても奇麗なままで、オイルで磨き上げると艶が輝きます。多くのお子さんと保護者さんに喜んでいただいています。



この活動を続けて嬉しいことは、ランドセルだけでなくお手紙や文房具などを頂戴するなど、全国から届く温かく優しい気持ちに触れることです。



真ん中のお子さんが、ウクライナ南東ザポリージャから福岡へ避難してきた小学生の女の子です。お父さんは、祖国を守るために故郷に残っているそうで、しばらくは福岡での母子生活が続きます。



ランドセルバンクの取組みに、校区をあげて協力してくださった事例もありました。
百道小校区（人尊協）からは、120個の大切なランドセルを受取りました。



TVや新聞など、多くの報道機関が情報提供に協力くださいました。

活動報告
02 カンボジアとミャンマーの孤児院支援

事業内容

コロナ禍の影響が続き、2021年度中も両国への渡航は叶いませんでした。これまでの交流支援で絆を育んできた孤児院のこどもたちの生活環境・学習環境の維持改善への支援活動を行っています。両国のこどもたちが1つずつ手づくりした「スマイルマスク」を活用した支援活動では、㈱新生堂薬局の皆さんから協力をいただきました。また、ライオンズクラブ国際協会337A地区4R1Zの皆さんからもたくさん協力を寄せていただきました。
コロナ禍や軍政による情勢不安。悲惨で過酷な生活が続く中、孤児院のこどもたちが懸命に描き上げてくれた絵（テーマ：将来の夢）が福岡に届きました。今後、多くの人に絵を見ていただく展示会を開いて、ミャンマーの現状に関心を持ち続けてもらえるような機会をつくっていければと思っています。







福岡からカンボジア・ミャンマー両国を訪ねる国際交流プログラム「次世代のチカラ旅」、コロナ禍以前に続いていたこどもたち同士による交流時の様子。
SFODA孤児院（左：カンボジア）
ヤタナボン寺院孤児院（右：ミャンマー）
それぞれ2019年8月 現地訪問時撮影



衣類や生活用品・学習用品などの支援物資を手にして、福岡に向けて感謝を伝える様子。国内の情勢不安により逼迫する生活が続きます。現地での支援活動には、TAKINO国際支援チームの仲間の皆さんがいつも協力してくれます。



施設に届いたお米などの食糧物資を前に、カンボジア現地から福岡の我々とオンライン上で交流する様子。
カンボジアでは、柳内さん率いるNGO団体「Pay it Forward」の皆さんと連携・協力しています。



ヤンゴン市郊外のサウスダゴーにあるダンマラキッタ小・中学校の層院長。6年前からずっとお世話になった方でしたが、新型コロナウイルスに倒れ、帰らぬ人となってしまいました。



2021.2.1軍のクーデターによる政変以降、ミャンマー全土で多くの尊い命が失われました。現地の仲間たちから届けられるその悲惨な現状を福岡で共有・啓発してくことも、私たちの大切な使命の1つです。

活動報告
03 「将来の夢」アートの展示

事業内容

これまで交流の絆を育んできたミャンマー・カンボジア孤児院の子どもたちが暮らす環境は、コロナ禍や内政不安などにより、以前よりもはるかに苦しく厳しいものになりました。そんな日々でも、明日への希望を失うことのないよう、現地で「将来の夢」を絵に描き上げるイベントを行いました。カンボジアから届いた絵は、応援いただいている企業の皆さんの元に届けました。ミャンマーからの「将来の夢」は、展示会イベントを開いて多くの方に見ていただくことで、現地の子どもたちへエールを送っています。また、苦しいミャンマーの現状に関心を寄せていただくための取組みを地道に続けます。





孤児院施設で楽しそうに「将来の夢」を描く様子。夢を追える日常が早く戻りますように。



描き上げた絵を笑顔で披露する様子。女の子の孤児たちは特に、人身売買の危険にさらされる存在です。



本山 東本願寺 浅草浄苑（東京都台東区）で催した「ミャンマーの平和を願う写真・絵画展」会場で、孤児院の子どもたち手づくりの「スマイルマスク」を披露する様子。



ライオンズクラブ国際協会337A地区4R1Zのクラブ皆さんの協力のもと、ホテル会場内に設けられた展示スペース。異国で必死に描かれた「将来の夢」を多くの方にご覧いただきました。



心待ちにしていたカンボジア・ミャンマーからの絵がようやく届いたことを、ミャンマー孤児院支援をいつも一緒に取組ませていただいている瀧野さんと、吉塚御堂のお釈迦様にご報告。



福岡市役所1F多目的ホールをお借りして開催したミャンマーエール展。2日間で、500人ほどがご来場されました。



会場を訪れた皆さんから、現地孤児院の子どもたちに向けた「メッセージエール」がたくさん寄せられました。



3年前、一緒にミャンマーを訪ねた親子が、会場に足を運んでくれました。現地の幼い友人たちの笑顔を願うばかりです。

活動報告
04 児童養護施設等への支援

事業内容

この間、福岡市内の児童養護施設等や里親家庭で養育される子どもたちへの支援活動を続けております。支援対象施設は、若久緑園、和白青松園、福岡子供の家、福岡育児院です。令和3年度、お花の先生・山口みどり先生と一緒に、新たに福岡県産のお花を活用した支援活動に励んでいます。季節に合わせたフラワーアレンジメントをつくるという体験イベントを子どもたちに提供しています。児童養護施設で生活を送る子どもたちの大半は、家庭内での虐待を経験しています。お花や植物は、心を穏やかに癒してくれる効果を持ちます。どのお子さんも、楽しそうにお花と向き合ってくれます。その他にも、多くの協力企業皆さんのおかげで、様々な支援を届けることができています。





若久緑園で暮らす児童約50人。ハッピーハロウィーンに合わせて、毎年、お菓子の詰合せプレゼントをお届けしています。　協力：福岡リバティLC





児童養護施設や里親家庭の子どもたちが、福岡県産のお花でフラワーアレンジメントを楽しむ様子。
左写真：若久緑園　右写真：和白青松園





夢中でつくり上げた自慢の作品（フラワーアレンジメント）と一緒に記念撮影。職員の先生からも、「普段見れない一面を見せてくれて感激しました」と喜びの感想をいただきました。その後は、自分たちのお部屋に飾ってくれていたそうです。



施設でのイベント後日に、子どもたちから送られてきたお手紙。読ませてもらうと、当日の楽しかった様子がとても伝わります。施設の退所を間もなく迎えようとする男の子は、帰宅したら手づくりのアレンジメントを母親にプレゼントしたいと話していたそうです。

活動報告
05 医療機関（医療従事者）等への支援

事業内容

コロナ禍が続く長期間、緊迫する医療現場では医療従事者の皆さんは身も心も擦り減らしながら、医療活動の維持に踏ん張ってくださっています。多くの女性が働く現場でもある数々の医療機関や介護施設などへ、株式会社フォーマルクラインさんのご協力によりたくさんの「スキンケア化粧品類」が寄贈されました。心身のリフレッシュの機会として、ほんの些細な支えになればとの心温まるご厚意から生まれたボランティア活動となりました。




















活動報告
06 学校での特別授業の企画・実施

事業内容

令和3年度も、大学や小学校で特別講義や授業をたくさん実施することができました。個別に授業内容を組立てますが、主に以下3つのテーマを大切にしています。



① ミャンマー・カンボジアの子どもたちとの交流経験をもとに、
世界の貧困課題や平和の尊さを取り上げる授業
② 福岡で実施してきたNPO活動事例をもとに、生きる上での過酷な悩みや
困窮が 生じる社会課題に触れ、自身に行動できる社会貢献を考えてもらう授業
③ 地方議員の経験を活かして、具体的な議会の仕組みや議員の役割に触れ、
主体的な政治参加や社会創造への気持ちを興してもらう授業



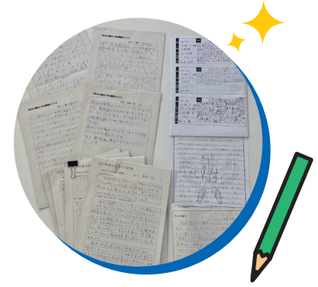
授業後にいつも、児童や学生から感想をもらうのですが、単に「自分のための将来」ではなく、「自分の将来は何に貢献できるのか」という視点が多く見られます。自身の将来に期待して、それぞれの「心が持ち上がっていく」のを肌で感じることのできる貴重な活動です。



小学校での授業では、「教える」のではなく「考えてもらう」ことを大切にしています。たくさんの会話が生まれる授業です。



授業では、何度もグループワークを行って、発表の機会にはたくさんの手が上がります。「友達の意見を聞けて、とても参考になった」という感想も多く届きます。



1人ひとりから寄せられる感想文はどれも、授業で感じた気づきやこれから挑戦していこうとする決意など、熱を帯びた文章で一杯です。



長引くコロナ禍の影響で、大学生にとっては海外での活動体験の機会が激減しています。ミャンマーやカンボジアの話に触れると、真剣な眼差しでこれまでの人生に接点の無かった世界へ意欲を向けようとしてくれます。



これまでに携わってきた様々な活動を「生きた教材」にして、学生の皆さんに社会のあらゆる課題や、その改善へのアプローチを考えてもらうことで、それぞれの思いが「夢」から「志」へと変わる大切な瞬間が生まれます。



感染拡大時、オンライン講義用の教材として、事前に学生からのインタビュー動画を収録する様子。

活動報告
07

小児がんご家族への支援

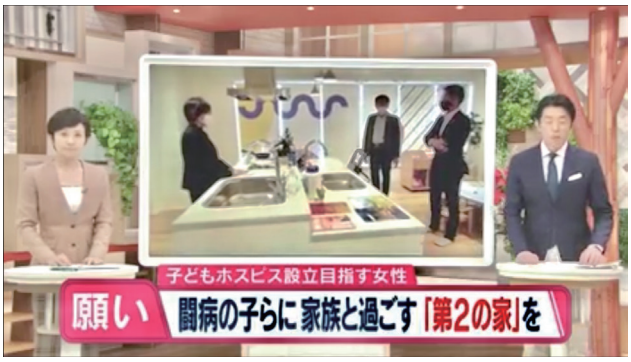
事業内容

小児がんは、どのお子さんにも発症し得る病気です。小児がんの診断を受けたその日から、当該児童やその家族の暮らしは一変します。過酷な抗がん剤治療を伴う長い入院生活に、死と向き合う恐怖、退院後の後遺症や合併症との闘い。小児がん家族の苦悩と孤立の現状を多くの方に知っていただくための啓発活動に取組んでいます。また、その現状を知って、多くの個人や企業の皆さんが協力の手を差し伸べてくれます。協力者皆さんと一緒になって、小児がん当事者ご家族のサポートを続けていきます。令和3年度には、協力企業さん（㈱フォーマルクライン / ㈱ホットスリム / ㈱プラッツ）のご厚意により、化粧品類や栄養補助食品、クリスマスイベント品などをお届けすることが実現しました。





小児がんをはじめ、重い病気や障がいがある子どもたちとその家族にとって、安心して様々な活動体験の場となる「こどもホスピス」。福岡で設置を実現しようと取組みが進められています。写真は、横浜に開設された「うみとそらのおうち」への見学訪問時のものです。



「こどもホスピス」の実現に向けた活動が特集された報道番組のひとコマ。小児がん家族当事者が抱える切実な悩みや厳しい現実、また当事者家族に寄り添うための施設が必要であることを広く周知・啓発していく取組みがとても大切になります。



九大病院小児医療センター親の会「すまいる」の皆さんと一緒に撮影。小児がんによる闘病生活やその後の後遺症・合併症と向き合ってきた経験を持つ「親の会」の皆さんが、まさに今、病室で治療に励んでいるご家族を様々な支援で支えてくださっています。



抗がん剤治療を伴う入院は半年～1年と長期に渡ります。患児やそのご家族向けに、毎日の体調管理と栄養補給に少しでも役立てていただければと「親の会」を通して届けられた栄養補助食品。
提供：株式会社ホットスリム

次世代のチカラ FUKUOKA

NPO法人 次世代のチカラ FUKUOKA

〒810-0041 福岡市中央区大名2丁目1-35-4F（スペクトラムアンドパートナーズ株式会社 事務所内）
TEL（092）722-2588　FAX（092）722-2589　E-mail　fukuoka@jisedainochikara.jp

公式ホームページは検索もしくは
QRコードからご覧いただけます。
次世代のチカラ　検索
http://jisedainochikara.jp/index.html